

提供日 2018/5/24(木)

タイトル 超低出生体重児に対するカテーテル治療の
国内初の救命例について

担 当 県立こども病院

連絡先 県立こども病院医療サービス課企画サービス係 川原

TEL 054-247-6251



～ともにつくる 信頼と安心の医療～

超低出生体重児に対するカテーテル治療の

国内初の救命例について

(要旨)

こども病院で大動脈縮窄症*を発症した体重約 900g の患児への心臓カテーテルによるステント留置術を本年 2 月に施行、救命に成功し、近日中に退院予定です。

1000g 未満の超低出生体重児に対する本治療による救命例は国内初です。

治療の内容について下記のとおり 記者会見を開きます。

(概要)

1 患 者

- ・生後 3 ヶ月 女児 (県東部在住)
- ・疾患名 大動脈縮窄症 (心疾患を伴わない『単純型大動脈縮窄』に該当)

2 治療の経過

月 日	内 容
2月7日	県東部の病院で出生。出生体重 902g
2月10日	緊急搬送により、当院 NICU に入院
2月17日	心不全の危険が高まり、当院循環器科の医師により、緊急の心臓カテーテル治療施行。
近日中	退院予定。現在の体重は約 2500g

今回の治療の内容・経過について、以下のとおり、会見を開きます。

(それ以前の取材は、ご遠慮ください。)

日時：平成 30 年 5 月 30 日 (水) 16:00～17:00

場所：県立こども病院 西館 3 階 映像情報室

※患者・患者家族も同席予定ですが、撮影は患者のみでお願いします。

※大動脈縮窄症・・・心臓の左心室から出た大動脈が首と腕に向かうため大きな 3 本の枝を出した直後の部分が狭くなる疾患。心疾患を伴い乳幼児期から症状を来しやすい「大動脈縮窄複合」と心疾患を伴わない「単純型大動脈縮窄」がある。細い大動脈に血液を通すために心臓に負担がかかり、内蔵や下半身に血液が届かず心不全を生じる。